2026 年度 神戸西支部代議員・理事連絡会 議事録

開催日：2026 年 10 月 9 日（金）

開催時間：19:00-20:40

開催場所：荻原記念病院にて対面開催

出席者：木澤副会長、山口常務理事、西原、戎、山本、矢澤、清水、中村、筧、見川、延本、村上、上田（敬称略）

欠席者：なし

記録者：西原

議題 1　前年度までの意見集約に対する県士会の対応状況

県士会より、過去 2 年間に各支部から寄せられた意見の対応状況が報告された。アーカイブ配信への生涯学習ポイント取得機能の導入、基礎的研修コンテンツの整備、広報改善、年会費の引き下げ、新入会者研修の開催時期変更等が進められている。一方、視聴データを用いた研修企画、キャリア段階に応じた研修体系、養成校との継続的な連携、休会者への働きかけは引き続き課題である。

研修会の申込・ポイント反映：神戸西支部では Google フォームによる申込が 1〜2 割程度との報告があった。ポイント反映までの時間差による問い合わせ、当日参加の扱い、QR コードの使いにくさが課題として挙げられた。セミナー申請時の当日参加受付設定の工夫について意見があった。

広報・会費：HPTA メールの配信方法や発信元の明確化、広報マニュアルの整備、Instagram による研修情報の発信が報告された。県士会年会費は 10,000 円から 8,500 円に引き下げられ、月額換算で会員メリットを伝える広報方法が提案された。

議題 2　会員確保、休会者対策および学生向け制度

県士会の登録会員は 7,000 人超、休会者は 1,000 人超、新規入会者は年間 400〜500 人程度との説明があった。ただし県内の理学療法士総数や施設別の未入会者数は正確に把握できておらず、入会率の評価には課題がある。次年度から休会時に事務手数料 1,000 円が必要となる予定との説明もあり、影響を注視する必要がある。

山口常務理事より、養成校在学中から県士会と接点を持てる無料の学生向けメンバーシップ構想が示された。アーカイブや研修会・学術大会への参加、学生向け企画、就職説明会・施設とのマッ

チング等を想定し、県外の養成校学生にも対象を広げる方向性が示された。正式な学生会員制度か、定款変更を伴わないメンバーシップ方式かは未定であり、小規模な試行から検討する。

戎氏から制度の推進と登録方法について質問があり、養成校から登録者一覧の提供を受け、専用アカウントを付与してアーカイブを閲覧できる方法が例示された。筧氏から学生への周知経路について質問があり、学生向けイベント、口コミ、SNS 等の活用が挙げられた。

矢澤氏から、既卒入職者、訪問看護ステーション、一人職場、クリニック勤務者に未入会者が多いとの指摘があった。会員管理データのみでは実態把握が難しいこと、施設内で入会の意義を伝える必要性が共有された。延本氏から、新生涯学習制度移行に伴う新人症例発表の位置づけの変化と入会率への影響について質問があり、旧制度との比較・検証が必要とされた。県学会への参加体験やアーカイブの充実が会員継続の動機づけとなり得るとの意見があった。

議題 3　診療報酬改定とリハビリテーション提供体制

リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算の導入状況や、急性期病院における休日リハビリテーション提供体制について意見交換を行った。新須磨病院では管理職の休日勤務が月 1 回程度との報告があり、名谷病院では 365 日リハビリテーションに対するインセンティブがあるとの紹介があった。

休日リハビリテーションの導入には、従来の雇用契約・勤務体系、育児と休日保育、休日勤務の処遇、収益と人件費の均衡、職員との合意形成等の課題がある。回復期と急性期では運用の前提が異なるため、各施設の実情を踏まえた段階的な整備が必要とされた。

今後、実施単位数だけでなく、訓練の種類、強度、時間、量等の標準化・データ化が進む可能性について意見交換した。ただし、具体的な制度内容や導入時期は未確定である。

議題 4　MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）の策定

山口常務理事より、県士会の MVV 策定状況が説明された。「つなぐ（人・地域・世代・多職種）」「高める（学術・技能・倫理）」「支える（県民の健康と暮らし）」を中心に、ビジョン案「理学療法の力で人と地域の未来をひらく」や、「挑戦する」「誠実である」といった価値観が検討されている。県民への貢献に加え、会員自身の成長・支援を明示する必要性が指摘された。

舞子台病院の出席者からパブリックコメントの実施について質問があり、次年度の県学会（兵庫医科大学で開催予定）等にブースを設けて会員の意見を募る構想が示された。60 周年記念事業を一つの節目として検討を進める。

議題 5　代議員・理事連絡会の運営方法

開催は原則年 1 回とし、代議員選挙の年は対面、翌年はオンラインとする従来の運用について意見交換した。戎氏より、議題・資料を早期に共有すれば代議員間で事前に議論し、支部会員の意見を集約したうえで会議に臨めるとの提案があった。年 1 回の開催を支持する意見のほか、理事会への代議員参加・傍聴、支部を越えた交流の可能性が挙げられた。

今後の検討・対応事項

・議題・資料の早期共有と、支部内での事前意見集約方法の検討

・学生向け無料メンバーシップの制度設計、登録・周知方法および試行

・新入会・休会・退会の動向分析と生涯学習制度変更の影響の検証

・アーカイブ視聴データの研修企画への活用と会員メリットの発信

・休日リハビリテーションの導入課題、診療報酬改定動向の情報共有

・MVV 策定に向けた学術大会等での幅広い意見募集

・支部意見の事業反映状況に関する継続的な報告

総括

本連絡会では、これまでの支部意見が会費引き下げ、研修・アーカイブ整備、広報改善等に反映されていることを確認した。今後は、会員動向の把握、学生からの継続的な関係構築、会員価値の可視化、MVV を軸とした事業運営を進めるとともに、代議員の意見集約から提案・事業化・結果報告までをつなぐ運営体制の充実が求められる。